

2025年度（令和7年度）学校評価自己評価表

城南中学校区	校番 5	福山市立川口小学校
最終更新日		2025年（令和7年）4月15日

I 福山市

ミッション	福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン	各中学校区・学校が、資質・能力の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容	児童生徒の現状	育成する力 ・ 質・量	課題発見する力（課題を見つける） 対話する力（コミュニケーション） 認める態度（人としての思いやり）
・ 児童生徒が授業や特別活動の各場面で自分の考えていることや自分の頑張っていることを表現する場があり、一人一人が認められている。	・ 友達と話し合ったり学び合ったりすることに楽しさを感じている。	めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)	・ 自己を認識し、自分の人生を選択し、表現することができる児童生徒
・ 児童生徒が主体的に学びに向かうように教師が熱心にサポートしている。	・ 縦割り班活動や委員会活動では、児童生徒の企画立案により異学年交流をすることで、自己肯定感が高まっている。	中学校区として統一した取組等	○ 学習指導要領に立ち返り、知識技能の定着にこだわった授業づくりを各学校で実践し、協議を継続する。
・ 具体的な評価指標を検討し、家庭や地域と連携を図りながら効果的に取り組んでいくとよい。	・ 知識や技能の習得が十分ではなく、特に言葉や数の理解と表現することに課題がある。		○ 各校での研修にお互い参加し合い、事後協議等において共通課題に対する各校の取組や状況を交流する。

III 自 校

ミッション	育成する力 ・ 質・量	課題発見する力（課題を見つける） 対話する力（コミュニケーション） 認める態度（人としての思いやり）
お互いを尊重し、組織（学校、地域）の中で協働しながら、自分自身とその家族を大切に、子どもたちとともに失敗を恐れず、チャレンジし、人間味あふれる自分のビジョンを語れる教職員のもとで、児童がつながり、「元気」「挑戦」「思いやり」の心を育てる。	めざす子ども像	「児童・学校・地域」とのつながり（人、もの、心）を大切にする児童 ・ 互いに支え合い、挑戦し続けよう ・ 互いに協力し合い、元気や喜びを味わおう
学校教育目標		
つなぐ ～元気・挑戦・思いやり～		
現状	研究	テーマ 自ら学びをつなぐ児童の育成 ～個々の見方・考え方を活かした授業づくり～
＜児童・学校・教職員＞ ○教職員の連携を密にし、組織で対応することで、児童が落ち着いて学習に取り組める環境が整っている。 ○国語科を中心に、授業研究を進めることで、子ども主体の学習が進んでいる。 ○教職員が仕事にやりがいを持ち、元気に勤務できる職場環境である。 ●学力（特に算数）の課題が継続している。 ●いじめにつながる事案が多く、お互いを尊重し合う集団づくりに取組む必要がある。	内容等	児童自身が「教材と自分」「仲間と自分」「学習したことを次の学びへ」つなぐことで、本質的な問いに迫り、見方・考え方を広げたり、深めたりして深い学びにつなげていく。
＜地域・家庭＞ ・ 学校教育推進に協力的である一方で、児童よりも保護者対応に苦慮する場面も多々ある。警察、家庭センター等の連携が多い。 ・ 地域との連携に課題がある。	めざす授業の姿	1. 教材とこれまでの学びをつなぐ これまで学んだこと（知識・技能）を総動員し、解決に向けて考える姿を引き出す 2. 仲間と自分の考えをつなぐ 自分の考えや集団としての学びを深める姿を引き出す 3. 学習した見方・考え方を次の学びにつなぐ 仲間とよさを分かち合い、自ら次の学びにつなぐ姿を引き出す

Ⅳ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立川口小学校

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)			
							□指標に係る 取組状況	力以 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	力以 評価	達成 評価	総合 評価
2	自ら学びをつな ぐ児童の育成	★	継続	学び合うことが できる児童の育 成	①仲間と自分の考えをつな ぐために「つなぎ言葉」や 「あいづちあいうえお」を 使って対話の質を高める。	児童アンケートにおいて、 「話し合い活動を通して、自 分の考えを広げたり、授業が 分かったと実感したりする ことができた」と回答する児 童の割合を85%以上にす る。	児童アンケートにおける肯定的 回答・87% ・どの教科でも話し合い活動を 積極的に行い、友達と考えを共 有することで、自分の考えを広 げたり、理解を深めたりするこ とができるようになってきた。 ・くすのきタイム(帯タイム)で は、様々なつなぎ言葉が書かれ た「チャレンジカード」を見なが ら話し合いを行った。しかし、授 業で「つなぎ言葉」を使って仲間 と自分の考えをつなぐ児童は少 ない。	3	3	①ICT 機器を効果的に用いて、 児童の多様な考えを共有した り、視覚的にとらえたりするこ とで、自分の考えを広げられる ようにする。 ②「チャレンジカード」を継続 して活用し「つなぎ言葉」の有 用性を実感させることで、自然 と用いることができるように する。そうすることで、自分と 友達の考えを比べたり、理解を 深めたりできるようにする。				
2	自ら学びをつな ぐ児童の育成	★	継続	自他ともに認め 合える児 童 の 育 成	①授業や日々の生活の中で 児童同士が認め合える活 動を設定する。 例・帰りの会にきらきらタイ ムを行う ・共感しながら相手の話を 聞く ・合意形成の場を設定する ②定期的に研修を行い、指導 力向上を図る。	児童アンケートにおいて、 「友達や周りの人の考えを 大切にして、協力しながら課 題解決に取り組んでいる」と 回答する児童の割合を 85% 以上にする。	児童アンケートにおける肯定的 回答・88.8% ・教師が児童のよいところを認 めたり共感的に受け止めたりし た。そのことで、児童同士がお互 いのよいところを認め合うこと ができてきた。 ・共感的な聞き方や合意形成に ついて、児童が具体的なイメ ージを持てておらず、十分な活動 につなげていない、という課 題がみられた。	3	3	①「共感的な聞き方」「合意形 成」等、抽象的な概念について 研修を通して理解を深める。 ②日々のことども(たち)の姿を もとに意見交流を行い、指導す る視点の共有や児童理解に向 けた観察力の向上を目指す。				
2	自ら学びをつな ぐ児童の育成	★	継続	体力向上に向け て自己決定する 児童の育成	①休憩時間や体育の授 業で運動量を確保し、 児童が自身の課題や 技能に合わせて選択 できる活動の場を設 ける。	児童アンケートにお いて、「自分の体力の 向上を実感すること ができた」と回答する 児童の割合を 85% 以上にする。	児童アンケートにおける肯定的 回答：85.3% 評価指標の達成に向けて、3つ の取組を行った。 ①児童の実態把握 ②身体能力に合わせた運動や場 を設定 ③体力の向上を実感できるよ うな振り返り その結果、提示された運動や 場の中から、自分の能力に適し たものを自ら選ぶことができる ようになってきた。しかし、授業 外で自分の体力について深く考 えたり、運動したりする児童は 少ない。	3	3	①体力テストの結果をもと に、今の自分に足りない力 や伸ばしたい力は何かを考 える場を設ける。 ②体育委員を中心に体力向 上の取組の場を休憩時間に 設定し、自分に合った運動 を選択できるようにする。				
3	教育公務員とし ての専門性及び 規範意識をもっ た教職員		継続	①仕事にやりがい をもち主体的に業 務に取り組む教職 員の育成 ②地域とつながり、 協働的に子どもを 育てる学校づくり	①主任主事を中心に、企画委 員会で業務内容の見直し を行ったり、学年会を設定 しコミュニケーションの 機会を確保したりする。 ②学習内容や活動の目的に 応じて、民生委員や体育 会、図書ボランティアや老 人会等と連携を取りなが ら様々な活動を設定する。	①教職員アンケートにお いて「やりがい」を感じる ことができたと回答する 教職員の割合を90%以 上にする。 ②教職員アンケートにお いて「地域」の人と触れあ える機会を持てていると 答える教職員の割合を8 0%以上にする。	①教職員アンケートにおける肯 定評価面は100% ②教職員アンケートにおける肯 定評価面は60% 昨年度の34.8%からは向上 しているが、継続した取り組み が必要である。	3	3	①取組を継続する。 ②学校の実態を地域に相談す る機会や取組に関する情報を を積極的に発信したりするこ とで、共通の目的を持って学 校と地域が双方向から子ども の成長を見守ることができる ようにする。				

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]		
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準	
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。